

令和4年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>【ミッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒たち一人一人を大切に、誰一人取り残すことなく、能力を最大限に伸ばし、進路を決めて卒業させる。 ・地域から愛され、生徒一人一人が輝く学校 <ol style="list-style-type: none"> 1 地域との連携を深めた学校づくりを推進する。 2 教育活動をとおして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。また、安心安全で充実した教育環境を整備する。 3 生き活きとした学習活動を公開し、地域から信頼される学校づくりを推進する。 4 自己理解を深めさせるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り拓く能力や、責任ある行動力をみにつけさせる。 5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努める。 6 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の充実と、特色ある教育活動を展開する。 7 タブレットの導入を含めて、ICT環境のさらなる充実を図り、「個別最適な学び」「協働的な学び」の構築を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、学習機会の保障に努めることができた。 2 学校行事では、文化祭・体育祭を2年続けて中止したが、代替としてクラスTシャツ作りを行い、また、学年別スポーツ大会を実施した。第2学年研修旅行は、行先を沖縄方面から広島方面へ変更し、日数を1日短縮して実施した。なお、マラソン大会は2年連続で中止した。課題としては、2年続けて中止となった行事は、行事経験生徒がいないことから、そのことを踏まえて企画準備を進める必要がある。 3 昨年4月、新入生の部活動加入率は、85%を超えた。新入生への部活動紹介も一助となっている。 4 毎月の木津駅前クリーン活動にも、積極的に参加できた。 5 学校評価アンケートの保護者回答では、「本校の教育は、保護者の期待に応えるものになっているか」の項目で肯定率70%を超えているが、さらなる向上を目指す。「生徒は、意欲的に学習に取り組んでいるか」の項目の肯定率が最も低く50%余りである。学習意欲の喚起への工夫が必要である。また、生徒回答では、「本校に入学して満足している」が約80%であり、学年が上がるにつれて上昇している。しかしながら、「本校の生徒であることを誇りに思う」との肯定率は60%であり、この肯定率を高めることが課題である。さらに、「ゴミの分別ができており、教室や廊下の清掃が行き届いている」についての肯定率も60%であり、分別と清掃についても次年度さらなる改善を行う必要がある。 6 製茶工場の施設設備の充実を図った。 7 令和4年度からの新学習指導要領への準備、BYOD一人一台タブレット端末の導入への準備、普通科の新エリア「探究エリア」の準備を進めることができた。なお、タブレット導入による家庭の負担も増えるため、高校三年間トータル教育費用を見直し、研修旅行費用の抑制等を図った。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 創立121年、木津高校の歴史と伝統、建学の精神を継承しつつ、近未来を見据えて、3つの学科において、それぞれ「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」の育成と充実を図る。 2 進路希望の実現と未来を切り拓く力を育成するために、学習活動において、基礎基本を大切に、当たり前前を当たり前に行う凡事徹底の指導をおこない、授業1時間1時間を大切に積み重ねにより、確かな学力の定着を図る。また、ICT機器の積極的な活用を推進し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の構築を推進する。 3 規律ある学校生活と基本的な生活習慣の確立を図る指導を行い、欠課・遅刻の減少に向けた指導を強化する。 4 粘り強い学習指導を行い、原留・中退を限りなく0に近づけるため、さらなる指導の充実を図る。 5 人権尊重と共生社会の実現に向けた取り組みを行い、多様性の理解し、互いの人権を尊重しながら、信頼で結ばれ成長し合う人間関係を作る学級経営や学校づくりを行なう。 6 地域等と連携した教育活動やボランティア活動を積極的に行い、確かな学力の定着を図るとともに、自己有用感と誇りを高める。 7 危機管理の徹底を図り、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、健康で安全な生活をおくることができるよう、健康安全教育および環境美化教育の充実を図る。また、施設設備のさらなる整備に努める。 8 学校・家庭・地域がコミュニティとして、それぞれの強みを活かして、つながる教育を推進する。 9 選ばれる学校づくりのために、広報活動をさらに充実させ、地域・中学生及びその保護者へ、木津高校の魅力を伝える取組を推進する。 10 教職員のスキルアップのため、研修の充実を図る。

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途退学者数を限りなくゼロに近づけるよう全校体制で指導を行う。	校務システムにおける日々入力を安定的に運用し、欠席過多生徒の情報共有を担任と教科担当間でより緊密にする。また、欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度の数より減少を目指す。各学期の中間考査後、K-Alertを全教職員に配付することや、各学期末においても成績会議を開催することで、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。「授業を大切にしよう」を活用し、課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 運用2年目である日々入力を安定的に運用し、生徒の欠席状況の把握を的確に行えるようにした。また、「K-Alert」に全学期の素点、評定、観点を追加し、より詳しく生徒の成績・各教科の欠席時数を全教員に知らせ、不振の改善を図った。生徒の異動状況も昨年度の同時期（2月）よりも改善している。 公開・研究授業週間及び授業アンケートを年2回実施することができた。公開・研究授業週間では、本年度導入した、1年生のタブレット端末を活用した授業を積極的に公開し、お互いの授業内容の交流を図ることができた。また、授業アンケートは、各教科主任による分析を行い、授業改善につなげることができた。教科目実施できなかったのが、来年度の課題である。 今年度本格実施である1年生対象の観点別学習評価は、学期ごとの教科主任会議で評価の在り方を検討し、軌道に乗せることができた。 図書委員会において、生徒主体の取組計画を作成できた。Classiを活用して「図書館だより」「新着図書案内」を発刊した。
	学習指導	ICTを活用した授業を推進し、「個別最適な学び」「協同的な学び」の構築を推進する。また、授業規律を確保するとともに、授業改善を推進し生徒の学力向上を図る。	タブレット端末導入の推進やClassiをより効果的に活用し、授業改善につながる取組（公開・研究授業週間、授業アンケート等）を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。	3			
	学校運営	新学習指導要領の趣旨を踏まえた「指導と評価の一体化」及び新教育課程の適切な実施を目指す。	昨年度研究した木津高校としての「指導と評価の一体化」を実践し、適切な評価を行い、通知票・指導要録に反映させる。また、新教育課程の導入を適切に行い、年次進行の完成を目指していく。	3	3		
	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員に図書館の利用を促進する。図書委員会の活動に生徒たちを積極的に取り組ませる。Classiを活用するなど、有効な広報活動を行う。	3	3		
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。月に1度、徒歩・自転車・電車等のマナー指導を行う。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 全校体制で毎日朝の登校指導とあいさつ運動を行った。遅刻者数は減少傾向にあるが、声かけや担任の先生と連携を継続し更に減少するように取り組んでいく。また、自転車安全推進委員に1年生14名が委嘱され、自転車のマナーアップに向けた啓発運動を行った。 身だしなみ指導月間を設けるなど、教員全員で身だしなみ指導ができる機会を増やしていきたい。 交通安全教室を木津警察署と京都府まちづくり推進課の協力の下、実施した。 いじめに関する調査、いじめ関係長欠調査を実施した。その結果について、いじめ対策委員会を開催し、共通理解を図った。 仮入部期間を設定し、新入生全員が部活動を体験できるように実施した。新入生の加入率が約80%と高かった。
			携帯電話やスマートフォンのモラルを教え、使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。	3			
			保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	保護者や外部関係機関と連携を密にし、生徒の安心・安全に留意した指導を行う。いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。			
	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校外外での奉仕活動、人権学習等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。部活動に参加しやすい環境をつくり、自主性・協調性の向上を図り、達成感を得られるよう指導する。	3	3		

キャリア教育推進部	進路指導	希望進路実現のために就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導体制のさらなる充実及び強化を図り、希望者全員の内定を得る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年部と連携し就職指導体制の充実及び強化を図ることができた。また学校紹介での就職内定率100%を達成できた。 ・特別進学指導の手引きをもとに、学年団、各教科、他分掌と連携し各学年の特別進学指導を実施することができた。 ・進路シラバスを基に年間を通して各学年と連携し、進路学習を実施することができた。 ・6月、8月、10月に中学校訪問を実施した。また、特色体験セミナー（8月）、学校説明会・部活動体験（9月）、特色体験フェスティバル（11月）、進路相談会（11月、12月）を実施し、参加者が体験や知りたい内容を選択できる形で実施できた。 ・HPの更新やInstagramの更新など、積極的な情報発信ができた。 ・PTAでは「きくふじ」の発行の他、進路講演会を実施するなど、役員と連携して取り組んだ。
	中高連携 広報活動 PTA活動	本校の教育活動に興味・関心を持つ中学生に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携をより強化する。本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。	中学校訪問や学校説明会、専門学科体験セミナーや普通科授業体験の実施により本校の魅力を伝え、中学校との信頼関係を構築し、特に木津川市、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。	3			
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育む。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃場所を明確にし、生徒と教員がより効率的で清掃しやすい環境を整える。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃範囲を再点検し、事務部と連携し修繕した。 ・各種検診は感染症防止対策を徹底する中で一斉検診を行うことができ、ほぼ全員受検した。 ・学校適応推進会議を開催し、必要な配慮について検討した。 ・支援が必要な生徒の進路選択について学年・キャリア教育推進部と連携し支援できた。
		保健活動を通して、生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を行う。	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、各種検診を実施し、保健活動を充実させる。健康安全・環境整備について、教職員・生徒に動画配信し理解を促す。	3	3		
		支援を要する生徒が自己理解を深め、自ら主体的に進路を切り開く能力を育てる。	SCやSSWを交えて学校適応推進会議や特別支援校内会議開催し、個別の指導計画を作成し、必要な支援や配慮を行う。自分に合ったスタディスキルやソーシャルスキルを見つけることで自立と進路を選択する能力を身につけさせる。	3	3		
農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの認証継続を目指す。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・作業記録のデジタル化がある程度できた。 ・おおむね整理整頓ができリスク共有ができた。 ・他校種との連携が計画通り実践できて来た。
		作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。リスクを共有し対処できるようにする。	3				
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	情報企画科との連携内容を充実させる。	3	3		
情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。時間・あいさつ・身だしなみの規律を定着させ、「主体的に授業に向かう」ことを重点項目として全学年に周知し、教員・生徒が共に徹底して取り組む。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで中止されていた地域イベントなどが徐々に再開しはじめ、本科の対外的な活動も今年度においてはあまり限定せずに行うことができた。インターンシップや全体的な社会人講師の招聘を次年度以降は再開に向けて検討していく。 ・「主体的に授業に向かう姿勢」については、今年度に確立した1学年の評価基準や評価方法を2、3年にも応用できるよう改善する。
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	専門性を生かした進路実現のため、担任と連携して個別最適化した指導ができるよう協議する。	3			

		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	情報企画科の取り組みをニュースやYouTubeなどで内外に発信し、地域住民や中学生に学科の魅力をアピールする。 中学生へのマナー講習会の出前授業を行い、学科の取り組みや魅力を知ってもらう機会とする。	3	3		・中学校へのマナー講習会は実施し好評であった。 YouTubeでの発信は今年度は行えず、Webでの情報発信も少なかった。
第一学年部	学校生活	基本的な生活習慣を確立し、目的ある性豊かな集団を育成する。	ルールを守らせる等の規範意識の確立を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校と中学校（義務教育）との違いや、様々なルールについて、意味や理由等を理解させ、丁寧に伝えることを行うことにより、一定の授業規律・規範意識の確立を図ることができた。 ・学力低下や人間関係などのトラブルに対し、積極的に面談や家庭訪問等を実施し、迅速に問題を解決することができた。 ・入学当初は、部活動の加入率は約80%であり、積極的に活動していたが、退部する生徒も少なくなかった。 ・どの学校行事に対しても熱心に取り組み、特に文化祭では準備の段階からクラス全体で真剣に取り組む姿が見られた。
			授業規律を守り、授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。	3			
			身だしなみや挨拶、時間を守ることの指導を徹底する。	3			
			生徒、及び授業担当者や保護者との連携を深めて情報を共有し、迅速な問題解決を図る。	3			
部活動および学校行事に積極的に参加し、協調する姿勢を養う。	部活動参加を積極的に推進する。	3	3	4			
校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。							
第二学年部	学校生活	<p>規律ある学校生活と基本的な生活習慣を確立し、確かな学力の定着を図る。</p> <p>進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。</p> <p>思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。</p>	規範意識の徹底を図る。 授業を大切にできる環境づくりと考査前学習会等の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立を徹底しようと取り組むが、前向きに授業に向かえない生徒もいる。今後も保護者との連携を密に、進学や就職等の進路を見据えて、指導を継続していきたい。 ・研修旅行に向けての学習を実施し、文化祭やスポーツ大会等を、自分たちで計画や取組、実施する力を養い、研修旅行を実施することができた。 ・安全や健康を意識し、黙食や環境美化の啓発を行った。今後も継続して行っていきたい。
			日常的な進路指導や、担任・キャリア教育推進部や保護者との連携を図り、定期的に面談を実施し、自らの進路希望の実現と未来を切り開く力を育成する。	3			
			人権学習や平和学習を通して、多様性を理解し、互いの人権を尊重しながら、信頼で結ばれ成長し合う人間関係を作る。 安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切に、健康で安全な生活を送ることができるよう、健康安全教育や環境美化教育の充実を図る。 校外学習や研修旅行、体育祭や文化祭など、充実した学校行事の実現に向け、事前・事後学習を計画的に行い、集団のリーダー育成にも取り組む。	3			
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導では、関係分掌と十分連携をとり、生徒、保護者に対して適切な情報提供を行うことで生徒の進路実現をサポートした。 ・社会の一員としての自覚を持たせるために、身嗜みや言葉遣いについて、学年全体で粘り強く指導を行った。 ・学年別ではあるがようやく実施された文化祭や校外学習、スポーツ大会や卒業式等の行事の中で、自他を大切にコミュニケーションの大切さを自覚させることができた。
			成人年齢の18歳引き下げに伴い、より一層社会の一員としての自覚を持たせるために、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。	3			
			学校行事や人権学習、清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にコミュニケーションの大切さを自覚させる。	3			
事務部	施設設備管理	安全安心な環境作りと南校舎の改修	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・南校舎改修工事により南校舎の教育環境が向上した。トイレも洋式化・乾式化し、従来の汚いイメージがなくなった。 ・Classiを活用し、保護者、教職員への連絡がスムーズに進められた。教職員に対しての連絡は一方通
			本庁各課と調整しながら、南校舎改修工事（トイレ含む）を実施する。	3			
	ICT環境の	ICT機器の整備・活用	教育活動その他学校運営にICT機器が活用できるよう必要な整備を	3			

整備・活用		行う。 I C T機器の事務部からの情報（お知らせ）にI C T機器を活用し、 情報が保護者に迅速に伝わるようにする。	3	3	3	行になっているが、教職員から事務部への連絡にもClassiを活用いただけたらと思う。 ・ほとんどの職員が今まで経験したことのない業務を担当したが、事務部内で相談、意見交換しながら、適切に事務処理を進めることができた。 ・予算が厳しくそのやりくりに苦慮したが、教職員の協力もありなんとか乗り切れた。
職員のスキル	適切な会計事務処理と共通理解	職員相互のチェック・確認体制を確立し、適切な会計処理をおこなう。 事務部内でそれぞれの仕事内容を共有し、共通理解を図る。	3	3		

学校関係者評価委員会 による評価	①学校に対する満足度が上がって、生徒が笑顔で元気に挨拶している様子が窺える。 ②今年度の卒業生は、コロナ禍で行事の経験も少なかったが、卒業式を厳粛な雰囲気で行うことができ、教職員と生徒との信頼関係が築けていると感じた。 ③地元の子どもたちが木津高校に入学してくれるように、木津高校の目指す方向性を明確にすることが重要になると思う。
---------------------	---

次年度に向けた改善の 方向性	①学校経営方針（中期経営目標）の達成に近づくため、個々の教職員が自分の果たすべき役割を自覚し、分掌部長を中心とした組織体制をより強化するとともに、分掌相互の連携を一層深めながら全ての教職員が共通認識のもとで学校運営に参画できる体制を目指す。 ②今年度は、観点別評価や1人1台タブレット端末の導入がスムーズにできた。来年度も引き続きこれらに取り組み、生徒が意欲的・主体的に学習活動を行うことができるようにする。 ③保護者や地域等との連携を強化し、保護者や学校関係者と教職員が協働して教育の質の向上を目指すことにより、地域から愛される学校を目指す。
-------------------	--